

2018年3月6日（火）

第3回学校評議員会

2017年度

奈良教育大学附属小学校の

とりくみのまとめ

（自己評価書）

学校づくり方針 **みんなの手で「みんなの学校」を**
研究課題 **“子どものため”の教育課程づくり**

学校づくり方針のテーマに『みんなの学校』を掲げてから 11 年になります。その間、学校をとりまく社会・情勢はめまぐるしく変化し、教育現場に求められることは確実に大きくなっています。

新学習指導要領が公示され、2020 年度から完全実施されます。そこには、「教育基本法、学校教育法などを踏まえ、これまでの我が国の学校教育の実践や蓄積を活かし、子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成。その際、子供たちに求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携する『社会に開かれた教育課程』を重視。」と記されています。

わたしたちは、子どもが「成長・発達の主体者」となれるように、自分たちで教育課程づくりをすすめることを大事にしてきました。「こんな力をつけたい」という願いをもって、教科の授業づくりと教科外の活動にとりこんでいます。それらの実践が目の前の子どもに合っているか問い直しを続けることが“子どものため”になると考えているからです。こんな考えから研究課題を“子どものため”の教育課程づくり」にしました。

こうした方針や研究課題にそって取り組んだ 2017 年度の教育実践について報告します。

教育研究について

(1) 教育研究会

◆概要

新学習指導要領の検討をしながら研究をすすめるために、今年度と来年度との 2 か年で研究会を計画した。2 月 3 日に第 44 回教育研究会を行った。

18 の公開授業、算数科・理科・家庭科・体育科・特別支援学級の研究授業と分科会、全体会で構成され、約 290 人の参加を集めた。

◆成果と課題

各教科の分科会で、新学習指導要領について「“子どものため”の教育課程づくり」という視点から参加者と論議をすることができた。そして、何を大切にしなければならないかを確かめ合うことができた。

全体会における井上寛崇教諭の基調提案は、体育「フロアボール」の授業実践をもとに教育課程づくりを進めていく中で考えなければならないこと（何のために・だれのために）について提案性の高いものだったと思う。実践においても、教員側に「何を学ばせるか」があり、それのどの子にも学ばせるために、どのように授業を展開していくのかがわかりやすかった。

中嶋哲彦先生（名古屋大学大学院教授）が「学習の意味を問い直す：新しい教育課程づくりのために」という演題で講演をしてくださった。ユネスコの学習権宣言を手がかりに学習の意味を確認しつつ、これからの教育課程づくりに必要な視点を考えるという主旨のお話であった。学習指導要領の文言の中で指摘された内容はなるほどそう読み解くのかと学ぶことが多かった。教育課程をどうつくっていくか、つくっていく権利をしっかりと守っていかなければと改

めて強く思った。

研究会で研究授業と分科会をする算数科・理科・家庭科・体育科・特別支援学級に、他の教科部のメンバーも分かれて所属し複数教科部を組織した。来年度は、国語科・社会科・音楽科・図工科の4教科で複数教科部会を組織し、第45回教育研究会の準備をしていく。なお、第45回教育研究会は、11月17日（土）を予定している。

(2) 校内研究授業

◆概要

①複数学年別研究授業【低・中・高学年別】 11月15日（水）

低学年 「おうちの人のしごと」（生活科 1年2組 河野教諭）

中学年 「わり算」（算数科 3年1組 丸山教諭）

高学年 「言語の規則性」（言語・文化 6年3組 勝原教諭）

②複数教科別研究授業【算数科・理科・家庭科・体育科】1月24日（水）

算数科 「面積」（4年3組 大谷教諭）

理科 「ものを水にとかす」（2年2組 石高教諭）

家庭科 「緑黄色野菜」（5年3組 平野教諭）

体育科 「マット運動」（4年1組 平口教諭）

③外国語教科化検討委員会 2月28日（水）

「色を表すことば」（言語・文化 5年1組 小畑教諭）

◆成果と課題

今年度は上記①②③のように三種類の校内研究授業を行った。

①の複数学年別研究授業では、低・中・高学年部会に分かれて授業公開と授業研究を行った。それぞれ専門の教科以外の教科での研究授業もあった。普段から各部会で交流し合っている子どもたちをもちに、それぞれの授業について話し合った。その後、会議で3つの部会での話し合いの内容を交流し合った。

②の複数教科別研究授業では、今年度の研究会で研究授業ならびに分科会を設ける算数科・理科・家庭科・体育科（特別支援学級も予定はしていた）で授業公開と授業研究を行った。各教科で研究会での主張を確かめ合う授業研究ができた。

③の外国語教科化検討委員会による研究授業では、これまで大事にしてきた言語・文化の授業づくりをどう発展させていくのかを全教員で論議することができた。

(3) 研究紀要

教科部・特別支援学級部の研究の成果と課題を確かめ合うために研究紀要を発行し教育研究会には資料として広く配布した。主な内容は、

○第43回教育研究会 基調提案「みんなの学校を」を、みんなの手に

○各教科部の教育実践記録 【資料①「2016年度 奈良教育大学附属小学校 研究紀要」】

(4) 特別なニーズのある子どもへの教育 (Special Needs Education)

昨年度までは、学習面での特別なニーズのある子どもたちへの指導については学習ニーズ委員会、生活面での特別なニーズについては生活ニーズ委員会を中心に論議をしてきた。しかし、学習面と生活面の両方のニーズを重ね持っている子が多くなってきている現状を考え、今年度からSNE委員会として、一つの委員会で研究・実践を進めていくことにした。

複数の教員でチームをつくり、学級担任や単学年部会・複数学年部会と連携して、子どものみかたやとらえかたを共有し的確なタイミングではたらきかけをつみ重ねてきた。また、大学の教員などの専門機関や奈良市子育て相談課やバンビホームなどの行政とも連携をとりながら、子どもや保護者への対応について話し合いを続けてきた。

一番の課題は、その子に応じた個別の指導が必要になってきており、取り出し指導などのための教員が不足していることである。

(5) スクールカウンセラーのとりくみ

週一(火曜日)で大学の栗本美百合先生が子ども・保護者・教員へのカウンセリングを行って下さっている。子育てについて相談できる相手が少なくなり、保護者が子育ての悩みを独りで抱え込まざるをえない状況が増えている。こうしたことからスクールカウンセラーの役割は年々大きくなっており、ケースによっては、保護者との懇談や職員会議・SNE委員会などに栗本先生に同席して戴くこともある。

回数の増加も含め今後も栗本先生と連携し、真にその子、その保護者の支えとなる方策を立てていきたい。

(6) 教育課程づくりを保護者に知らせるとりくみ

学級通信や学期ごとに配布する「〇年〇学期はこんな学習をします」「通知表について」、また月々の懇談会などで、教材のねらいや学習の進め方、また評価の観点・基準を保護者に伝え、附小の教育課程づくりを理解してもらえるようにしてきた。

これからも附小の教育課程づくりをわかりやすく保護者に伝えていく努力を重ねたい。

(7) 道徳と外国語の教科化に向けてのとりくみ

道徳が2018年度から「特別の教科 道徳」として教科化される。外国語の教科化も2018・2019年度の移行措置期間を経て2020年度から完全実施される。

道徳も外国語も教科化検討委員会を設けて今後どう進めていくかの話し合いを積み重ねた。道徳においては教科書の採択などをした。外国語においてはこれまで附小が大事にしてきた言語・文化をどう発展させながら英語をどう入れていくかを論議した。

夏休みには和歌山大学教授の江利川春雄先生をお招きして、「小学校英語教育の歴史から未来を拓く ―ことばに敏感な子どもを育てるために―」という演題で講演いただいた。

子ども研究について

(1) 子ども観を深めるとりくみ

子どもの人権を損なう問題（虐待、いじめなど）には、全教職員で機敏に対応することを会議などで確認している。一つひとつの事案や気になることは会議で報告して全教員で共有し、学級担任・学年団、また養護教諭や専科教諭、SNE委員、管理職などが連携してとりくみを進めている。SNE委員会の学習会として大河原美以先生（東京学芸大学教授）の事例検討会を開いた。（3月2日）

教職員が日々多忙なため、子どもの変化をつかむことや教職員間の連絡・連携が難しくなりがちでもあるので、仕事の精選と教職員の人員確保も重要である。

課題としては、引き続き一人ひとりの子どもの様子をよくつかみ、課題が感じられれば教職員全員で共有し保護者とも連携しながら解決に向けたとりくみを迅速に進めることである。

(2) 児童会活動

◆全校行事

児童委員会や5年委員会が中心となり、全校のなかまでつくりあげる行事にとりくんだ。

- 1年生をむかえる会（4月12日）
- 体育大会（10月24日）
- 「なかまのがんばり博物館」（12月12日）
- 「5年生が中心になる会」（2月27日）
- 「卒業の会」（3月16日／予定） など

◆全校集会

ほぼ毎週の火曜日3時間目に全校集会をおこなった。児童委員による平和学習にかかわる発表や、「がんばりを見つけよう会」として学年・学級・専門委員会（図書委員・体育委員・自然環境生産委員・音楽委員・19c交流委員会など）からの発表などがあった。学級や学年・専門委員会の発表を見合ったり聞き合ったりして、まずはがんばりを見つける。さらに、そのがんばりを相手に伝える。そして、お互いが大切ななかまになっていくことをめざした。

【資料② 7クラス学級だより「オオバコ」】

◆縦割りグループでの集まり

1～6年生のグループ。今年度のグループ名は、「かめ食いループ」に決まった。5～7人ずつをつくり、異年齢集団でのグループ活動を進めた。

6年生が学んだヒロシマの被害や願い、社会見学の立命館大学国際平和ミュージアムで学んだ戦争中の暮らし・被害と加害などを全校に広めるとりくみ、5年生が中心になって工作を作って遊び、互いのがんばりを知り合うとりくみを行った。

- ヒロシマ修学旅行で学んできたことを伝える会（6月13日）
- 体育大会での縦割り種目（10月24日）
- 立命館大学国際平和ミュージアムで学んだことを伝える会（1月23日）

- 「5年生が中心になる会」(2月27日)【資料③ 13クラス学級だより「ハイ・タッチ」】
- 「絵を見る会」・かめグループ給食(3月6日)

◆課題としては、児童委員会がリードする全校での児童会活動と各学級での学級集団づくりとのつながりを明らかにして、児童会活動をよりいっそう一人ひとりの子どもの成長に結びつくものにする事があげられる。

保護者・地域との共同で

(1) P T A活動

次の取り組みを通して、附小教育への理解を図った。また、子どもたちのために、教員と保護者が共同してとりくみを進めることができた。

◆月々の学級(学年)懇談会で、その時期にとりくんでいる教育や学級づくりについて語った。

◆保護者に附小教育を発信し合意を広げる機会としてP T A実行委員会で教員が教科教育や教科外教育のとりくみを語った。

- 「音楽の授業で大切にしていること」(7月6日)
- 「体育大会づくり」(10月5日)
- 「附属小学校の理科で大事にしていること」(1月11日)
- 「算数科でめざすもの」(2月22日)

◆P T A研究会を11月25日に行った。9つの分科会を開催し、保護者が希望の教科の「附属小学校の授業」を体験できる企画であった。保護者の教科教育への理解をさらに深めるとりくみとなった。

◆「三附属交流会」を11月14日に開催した。今回は「奈良のまちクイズラリー」と称して本学の中澤静男先生のお話を聞きながら高畑～奈良公園界隈を散策した。1月23日には全国国立大学附属学校P T A連合会の「いじめ対策活動助成金事業」として講演会を開催し、講師に伊庭千恵先生をお招きし、「発達障がいに見る子どもの行動と情緒への対応 ～いじめ、逆境体験から考える～」というお話を聞いた。

◆学校保健委員会で附属小学校の健康教育や食育についての考え方を伝え、理解を深めてもらった。11月7日に、DVD(「パパ、遺伝子組み換えってなあに?」)を視聴しての「食の安全についての学習会」を行った。また、12月5日の委員会に給食納入して下さっている「山本食料品店」さんに来ていただいて、野菜の見分け方や新鮮なものの見分け方についてお話をお聞きした。

さらに、1月25日に委員会主催の講演会を開いた。J R奈良駅前のなんぶ小児科アレルギー科の南部先生をお招きして「アレルギーに負けないからだをつくろう ～日常生活での注意点～」の演目でお話いただいた。

◆三附属PTA、つめくさ会、たかまどの会、付小教育を支える会の活動が進められ、附小教育の大きな支えとなった。「山焼きを見る会」（たかまどの会・付小教育を支える会共催/1月27日）には、約300人を集める参加者があった。

また、“できることを、できる時に”という趣旨から、ボランティア掃除（トイレ、手洗い場など）・ベルマーク集めなど、自主的参加の活動が進められた。

◆PTA活動への理解と協力を広げ役員・実行委員などの担い手を増やすために今年度も▽実行委員会中の保育の実施▽実行委員会のための交通費の支出▽いろいろな場で実行委員や役員の仕事内容を広めることなどを具体化した。次年度本部役員を決めるために今回も自薦の方も広く募りその中からも交渉に当たっている。

(2) 地域との共同

◆飛鳥子ども安全ネットワークに加入し、地域の団体、方々とともに登下校などの安全対策に取り組んだ。1学期（5.24）と2学期（10.25）は登下校時の安全に関わる指導を全校で行い、飛鳥校区の子どもたちについては、ネットワークの人たちを紹介し、ネットワークの人の話を聞いた。3学期（1.17）は、下校時に交通安全指導を行った。

◆飛鳥中学校区少年指導協議会に加わり、地域と連携して子どもたちを守るとりくみを行った。

大学との連携など

(1) 教育実習

学部3回生（6月・9月）の教育実習を、それぞれ3.5週間ずつ、教職員大学生の教育実習を6月に2週間行った。事前には、教育実習基礎演習・教育実習事前指導として学年・特別支援学級・教科ごとなどの授業参観や講話などを行った。また、1回生の「現代教師論」での授業参観、2回生のスタートアップでの教育実習参観も実施した。

また、教育実習ポリシー策定WGに参加して、大学教員・他附属関係者と論議して教育実習のポリシーと指標の作成にとりくんだ。

(2) 附属間の連携や大学との共同研究

ユネスコスクールへの加盟申請が認められ数年がたつ。

今後、大学全体で推進されている「持続可能な開発のための教育」（ESD: Education for Sustainable Development）の理念に基づく教材・カリキュラムの開発を、学部・大学院・附属学校園の連携で進めていきたい。

(3) 教員採用

算数科と特別支援教育を研究教科とする教員をそれぞれ公募し、採用を決定できた。